

平成30年度第2回広島県営林管理経営評価委員会における委員の質問・意見(概要)

- 1 日 時 平成30年12月10日(月) 14時00分～15時00分
- 2 場 所 広島市中区基町10-52 県庁自治会館1階101会議室
- 3 議 案 第1号議案 第1期広島県営林中期管理経営計画の達成状況について
第2号議案 第2期広島県営林中期管理経営計画の骨子(案)について
第1・2号議案は、原案のとおり承認された。

4 委員からの主な質問・意見 (○質問 ●回答 ◎意見)

(1) 第1号議案 第1期広島県営林中期管理経営計画の達成状況について

- 生産性が向上していることは評価。生産性が上がった要因は、生産性が良いと思われる事業地を対象に実施したのか、作業班の技術が上がっているのか。
- 生産性については年々上がっているが、一方で、事業地の現場条件は年々悪くなっている。計画初期の事業地は面積規模が大きかったが、近年は初期と比べ小さくなっており、木の太さも細くなっている。これらを踏まえると、年度、事業体、現場によって異なるが、作業班が生産性の改善に努めた結果、生産性が上がったものと考えている。
- ◎ 生産性について作業班自体でPDCAを回し、確認する中で、生産性の向上の意識が定着すると思う。第2期中期計画に向けて、これまでやった生産性向上の取組を総括した方が良い。
- 第2期中期計画にも影響するが、素材生産量の実績は、用材のみか、またはバイオマス材を含んだ生産量なのか。
- 需要等を踏まえ、平成28年度からバイオマス材生産を本格的に開始したことから、検証では、バイオマス材を含んだ生産量で整理している。第2期中期計画でも、需要等を踏まえ、バイオマス材を含んだ生産量を考えている。

(2) 第2号議案 第2期広島県営林中期管理経営計画の骨子(案)について

- 成果指標となる素材生産量について、バイオマス材を含んだ値であるということだが、バイオマス材を含むことで、経営計画の収支面で不利になることはないのか。
- バイオマス材と用材を販売単価で比較するとバイオマス材は劣るが、バイオマス材販売による利益もある。この計画量を実施することで、経常利益を約1千万円確保できる見込みである。
- 第1期中期計画にあった、利用間伐の生産性の目標、直接協定取引の導入割合の目標はどうか。
- 生産性については、第1期中期計画の目標8.0 m³/人・日に対し、実績は8.4 m³/人・日と、目標を達成しているため、第2期中期計画では成果目標には掲げないが、引き続きアンケートにより追跡調査し、分析したいと考えている。
また、直接協定取引の導入割合は40%を大きく上回り、80%から90%の実績となっているため、

目標には掲げないが、直接協定取引は第2期中期計画でも継続して実施していく。

- 第2期中期計画の成果目標に、経常利益の具体的な数値目標は掲げないのか。
- 成果目標は、素材生産量としている。経常利益については、各年度計画を示した上で、経常利益の黒字化に取り組む。

- 第2期中期計画における必要施業量の中に、現時点でできるものと、条件整備の取組が必要なものとあるが、条件整備とは具体的に何か。
- 伐採後の管理方法についての所有者調整や、分収割合の変更同意、路網アクセスの改善などである。

- ◎ 県営林事業を計画的・安定的に継続するためには、事業地及び事業体の確保が重要となっている。第2期中期計画は、これまでの検証結果を踏まえ整理していただきたい。